

大阪・関西万博から届ける地球の未来へのメッセージ

～参加型ステージイベント第2弾を開催!～

#ミライブカツ #大阪関西万博 #NaturePositive



東京書籍は、2025年8月14日に大阪・関西万博「大阪ヘルスケアパビリオン リボーンステージ」で、“未来の学び”を体験する参加型ステージイベント「ミライブカツ」の第2弾「地球と未来のNature Positive プログラム」をTOPPANホールディングスとの共催で行いました。

これは、河森正治さんプロデュース「いのちめぐる冒険」パビリオンやCLASS EARTH株式会社の協力もいただき、SDGsや生物多様性をテーマに「Nature Positive＝自然を取り戻す」という新しい価値観を、子どもたち自身の視点と言葉で世界に届けるイベントです。子どもたちは地球の未来を守る「アースセイバー」(※1)になるべく、5つのプログラムの中でフィールド観察発表やプレゼンテーション、人気振付師とのオリジナルダンスなどを行いました。ここでは子どもたちの発表内容や、当日のイベントの様子をレポートします!

(※1) アースセイバーとは、絵本『ラテルとアースセイバー 絶滅危惧種が教えてくれること』(作/高岸遥、絵/ロマン・トマ、英文/高岸楓、監修/WWF ジャパン、出版/フレーベル館)に登場する主人公が、地球のいきものを守る人になることを目指す呼称。

東書 NEWS! | No.10

イベント当日の万博の来場者数は 185,240 人！

イベントは、お盆の中日である8月14日に開催されました。当日の大阪府は最高気温 35.8 度！ただ、夏休み期間中ということもあり、万博会場は多くの家族連れで賑わっていました。東ゲートの入場待機列では、子どもたちの「早くミャクミャクに会いたい！」といったわくわくした声が耳に飛び込んできます。その東ゲートの近くにある、大阪ヘルスケアパビリオン前のステージが今回のイベント会場です。



アニメ「地球のラテール」ともコラボ！

プログラムは5つのパートに分かれ、13時から18時までの5時間にわたって行われました。各パートでは、前半は主に子どもたちを中心としたプレゼンテーションが、後半はダンスなどのイベントも行われました。河森さんをはじめとした専門家は、それらについて講評したり、エールを送ったりしていきます。

実は、このイベントは今年の9月からNHK Eテレで放送が始まったアニメ「地球のラテール」ともコラボレーション。プログラムを通して子どもたちが目指す「アースセイバー」は、このアニメでも使われるキーワードで、主人公は地球の生き物を守る人になることを目指しています。後半のダンスに合わせる曲も、アニメの主題歌である「地球のオーケストラ」。アニメの世界観を現実に重ね、子どもたち一人ひとりが主人公となり、地球の未来のために発信するイベントとなりました。

いきものの目線で考えてみよう<オープニングトーク>

最初のプログラムは「いのちめぐる冒険」プロデューサーの河森正治さんとデジタルハリウッド大学の学長代理の佐藤昌宏さん、株式会社 baton 代表取締役の衣川洋佑さんによるオープニングトーク。まずは3人から子どもたちへ向けて、「アースセイバー」のミッションとして心がけてほしいことについて話がありました。



河森さんは「その生きものの目線になって感じることを挙げ、次のように話しました。「例えば、鳥だったら飛んでいる気持ちで高いところから見てみたり、虫だったら地面に近いところから物事を見てみ

たり。虫になってみるなら『今、殺虫剤まいたな！』と気をつけるかもしれない。そのようにして、その生きものになった気持ちで考えてみると気付けることがありますよ」。

何かを考える時、その人やもの側の立場になって考えることはとても大事なことです。多様ないきものとの共生に向けた子どもたちのアイデアがどのような形で発表されるのか、期待が高まります！



河森正治さん

人と動物の共生<世界のいきもの、見てみよう！>

続いて、河森さんと野生動物写真家の高野洋さんと、2人の小学生も交えたパネルトーク「世界のいきもの、見てみよう！」がスタート！ 高野さんから、絶滅危惧種であるアフリカゾウ、カバ、ハシビロコウの生態について、子どもたちとのクイズ形式で進行していきます。

ゾウに関するクイズでは、「足跡」の秘密について出題されました。ゾウの足跡が水場となり、そこから小さな生態系が生まれることから、ゾウは森や草地の構造を変える“生態系のエンジニア”とも呼ばれているそうです。さらに、足跡の形からゾウの個体情報も得られるとのこと。子どもたち2人もゾウに詳しく、見事に正解していました！ 巨大なゾウが自分たちだけではなく、森の中の多様な動植物と共生していることを聞き、その存在の偉大さと共生の重要性について学ぶことができました。



人と動物の共生について、河森さんからは「以前アフリカに行ったときに、野生動物の世界で人間が少数派になる体験をし、人間と自然のバランスについて考えさせられました。アフリカまで行く必要はありませんが、できれば、いきものがあるところに行ってさまざまなことを感じてほしいです」とのコメントがありました。



高野洋さん

高野さんからは「『自然』という言葉が作られている時点で、人間と自然・動物はすでに分けられてしまっています。私たち人間と、自然や動物との距離感は難しいですが、区別するのではなく一緒に生きていくために、そしてこれから絶滅危惧種を増やさないためにも、みんなで共生する方法を考えていきましょう」といったメッセージがありました。

自然の循環に入ってみる<いきもの探しはデカルチャー！>

続いて行われたのは、子どもたちによる身近ないきものについてのプレゼンテーション。いきものコレクションアプリ「Biome」（※2）に、3人の小学生が投稿した内容の発表が始まります。発表後には、河森さんと株式会社バイオーム代表取締役の藤木庄五郎さんから講評が送られました。



その中でも、大阪府の小学3年生の男の子は、三重県の祖父宅で見つけた「ヤクシマルシジミ」を紹介。羽にハートのマークの模様があることがお気に入りポイントで、自宅の周りにはおらず、東海地方や鹿児島県などの自然が豊かな場所にしか生息していないそう。その上で、「ヤクシマルシジミがいなくなってしまうように自然を守っていきたい」と強く宣言していました。

他の2人も、それぞれの外出先で見つけないきものを紹介してくれました。「Biome」アプリにはマップ機能もあるので、自分だけのオリジナル図鑑を作るように楽しむこともでき、夏休みのお出かけのお供にぴったりですね！



藤木庄五郎さん

藤木さんは子どもたちの発表を受けて、「身近な生き物や自然に目を向けることが、自然の循環に入る第一歩。ぜひ五感を使って自然を感じてほしいです」とコメント。河森さんは「現場で感じたことは自身の感受性につながります。感受性が高ければ、同じ時間でもより多くのことを感じられて何倍も楽しい。これからはさまざまな体験をしてほしいです」とメッセージを送っていました。

（※2）いきものコレクションアプリ「Biome」とは、生き物の名前をAIで判定し、図鑑やマップ、SNS、クエスト機能などを備えた無料のアプリ。他のユーザーと交流したり、クエストに挑戦したり、楽しみながら生き物について学べる。2025年8月時点で、ユーザー投稿数は300万件を超える。

AI を活用した発表も！ <テクノロジーでいきものを守る！>

次に行われたのは、子どもたちによる「未来の発見アイデア」のプレゼンテーションです。2人の小学生から発表があり、発表後には、河森さんと佐藤さん、東京書籍 DX 企画部の清遠和弘さんから講評がありました。



奈良県の小学4年生の男の子は、「ぼくの夢」と題して、見るも釣るも食べるも大好きな魚について発表。万博で得た新しい技術や世界の知識をもとに、魚が生きやすい海や安心して魚を食べられる環境を創ることが将来の夢になったそう。その実現のため、海のいきものを守る「サカナマモルアプリ」を提案し、AI 分析による効果検証の表を用いた発表には3人も驚き！ もう1人の小学生も、ドローンを活用した自然保護を提案していました。

河森さんは「私自身が子どもの頃に見た万博の光景を夢見て、今こうして万博に携わることができています。もしかしたら、今日の2人は数年後の万博のどこかでも発表しているかもしれませんね」と、大きな期待を込めてメッセージを送られていました。

ミャクミャクと一緒にアニメ『地球のラテール』主題歌にのせてダンス！

イベントも後半へ突入。ここからは振付師・動画クリエイターのぶんけいさんと子どもたちによるダンスタイム！ 今年の9月からNHK Eテレで放送が始まったアニメ『地球のラテール』の主題歌「地球のオーケストラ」に合わせて、ぶんけいさん振り付けの「地軸ダンス」をみんなで踊ります。そしてなんと、この時間には、アニメの主人公カナデ役の声優を務める谷江玲音さんに加え、ミャクミャクもステージに登場！ 大阪ヘルスケアパビリオンのステージの周りには多くの人が集まり、イベントのクライマックスに向けて大きな盛り上がりを見せていました。



(上) ぶんけいさん (下) 谷江玲音さん (右) みんなで「地球のオーケストラ」を踊りました。

「もっと地球をきれいにしたい」<子どもたちによる「未来へのメッセージリレー」>

17時30分、いよいよこの日のクライマックスは、出演した子どもたちがステージに再登場し、イベントの締めくくりとして「未来へのメッセージリレー」が行われました。各プログラムを通じて、いきもの・地球・未来について考えた子どもたちがそれぞれの言葉で発表します。

子どもたちからは「緊張したけど、もっと地球をきれいにしたいと思いました」「ミャクミャクとダンスを踊れて楽しかったです」といった感想が聞かれました。



まとめ

「ミライブカツ」の第2弾のイベントはいかがでしたか。子どもたちがいきものや自然について考え、「アースセイバー」を目指して地球の未来へメッセージを発信した姿は、大阪・関西万博のテーマ「いのち輝く未来社会のデザイン」にも合致し、とても有意義なイベントになったのではないかと思います。

大阪・関西万博は、閉幕まで残すところ1ヶ月を切りました。東京書籍はこのイベントが開催された大阪ヘルスケアパビリオン内「ミライの都市ゾーン」にて、「未来の学び場」をテーマにブースを出展しています。また、このブースは、8月20日の発表で「第19回キッズデザイン賞」を受賞しました。大阪・関西万博にお越しの際は、ぜひ東京書籍の「未来の学び場」にもお立ち寄りください！



東京書籍 大阪・関西万博特設サイト <https://www.tokyo-shoseki.co.jp/tosho-expo2025/>